

令和元年第6回（9月）佐渡市議会定例会会議録（第6号）

令和元年9月18日（水曜日）

議事日程（第6号）

令和元年9月18日（水）午前10時00分開議

第1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（22名）

1番	後藤 勇典 君	2番	伊藤 剛 君
3番	佐々木 ひとみ 君	4番	宇治 沙耶花 君
5番	室岡 啓史 君	6番	広瀬 大海 君
7番	上杉 育子 君	8番	稲辺 茂樹 君
9番	山田 伸之 君	10番	荒井 眞理 君
11番	駒形 信雄 君	12番	渡辺 慎一 君
13番	坂下 善英 君	14番	金田 淳一 君
15番	中村 良夫 君	16番	岩崎 隆寿 君
17番	佐藤 孝 君	18番	祝 優雄 君
19番	近藤 和義 君	20番	竹内 道廣 君
21番	中川 直美 君	22番	猪股 文彦 君

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により出席した者

市長	三浦 基裕 君	副市長	藤木 則夫 君
副市長	伊藤 光 君	教育長	渡邊 尚人 君
総務課長 (兼選挙 管理委員会 事務局長)	中川 宏 君	企画課長	猪股 雄司 君
財政課長	磯部 伸浩 君	子ども若者 課長	市橋 法子 君
高齢福祉 課長	岩崎 洋昭 君	世界遺産 推進課長	坂田 和三 君
交通政策 課長	高津 孔 君	農業政策 課長	金子 聡 君

教育総務課 渡邊裕次君

事務局職員出席者

事務局長	村川一博君	事務局次長	本間智子君
議事調査係	梅本五輪生君	議事調査係	岩崎一秀君

令和元年第6回（9月）定例会 一般質問通告表（9月18日）

順	質 問 事 項	質 問 者
17	<p>1 北方領土問題に対する市長見解</p> <p>(1) 8月2日のメドベージェフ露首相の択捉島強行訪問</p> <p>(2) 北方領土に最新型の地对艦ミサイル「バスチオン」を配備し、大規模軍事演習の実施</p> <p>(3) 日本が「不法占拠」と「北方四島は日本に帰属する」との文言を全国大会決議や外交青書から削除したこと</p> <p>2 戦後最悪の日韓関係に対する市長見解</p> <p>(1) 徴用工問題</p> <p>(2) 慰安婦問題</p> <p>(3) 韓国政府の日本との軍事情報包括保護協定（G S O M I A）破棄</p> <p>(4) 日本人拉致問題への影響</p> <p>3 農業問題に対する市長見解と対策</p> <p>(1) 農業者の高齢化 平均年齢69.1歳（コメ農家69.5歳）</p> <p>(2) 戸別所得補償制度が不可欠 食料安全保障のため。2018年度食料自給率37%（過去最低）</p> <p>(3) G A P（生産工程管理）認証の必要性</p> <p>① 農林水産省や厚生労働省は、農産物等の輸出拡大のため、職員を緊急増員して対応強化を図っている</p> <p>② 東京オリンピック・パラリンピック選手村への食材提供のため、G A P 認証農家が全国的に増加している</p> <p>③ 本市農家のG A P 認証取得の現状と今後</p> <p>4 人口減少・少子高齢化対策</p> <p>(1) 出産祝金制度の創設をすべきではないか</p> <p>(2) 福祉施設の増設（増床）が不可欠ではないか</p> <p>(3) 健康寿命延伸に実績がある「トランポリン教室」を導入してはどうか</p> <p>5 現在の滑走路長でも離着陸が可能で、48人が搭乗できる「A T R 42—600 S 型機」開発の進捗状況と、「羽田空港の発着枠の一部を地方へ再配分」の内容</p> <p>6 合併特例債の今後の用途と建設事業計画</p> <p>7 佐渡金銀山世界遺産の国内推薦の見通しと、現在の要望署名者数</p> <p>8 核兵器禁止条約等に対する市長見解</p> <p>9 佐渡市立文化芸術大学の設置要望に対する所見</p>	近藤和義

午前10時00分 開議

○議長（猪股文彦君） ただいまの出席議員数は21名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

○議長（猪股文彦君） 日程第1、一般質問を行います。

近藤和義君の一般質問を許します。

近藤和義君。

〔19番 近藤和義君登壇〕

○19番（近藤和義君） おはようございます。近藤和義でございます。本定例会最後の一般質問をいたします。

今、稲刈りの最盛期です。去年は過去10年間で最も低い作況指数で、大変な不作でありました。農家はことしこそはと意気込んでいましたが、昨日現在の佐渡米の1等米比率が何と52%と聞いていますが、過去に例を見ない低品質と聞いています。まさに緊急事態であります。原因は、登熟期の高温障害による背白粒や未熟粒と報道されています。申し込みをすれば1等米との差額補填がされる品質保証の共済をかけている農家が300件ございます。きのう現在で申請が70件程度と聞いておりますので、ぜひとも申請をしていただきたい。刈り取り後では申請ができません。農業政策課からも早急に周知をお願いしたいと思います。

それでは、質問に入ります。近藤資料ナンバー1、北方領土問題。日本政府は、メドベージェフロシア首相の北方領土択捉島訪問やロシア軍の1,000人を超える演習について、「我が国の立場と相入れない」などと抗議をしましたが、これに対して北方領土を不法占拠しているロシアは「内政干渉に極めて近い」と反発をした。菅官房長官は8月7日の記者会見で、「平和条約交渉を静かな環境のもとで進める観点があるので、差し控えたい」と述べ、内政干渉との対日批判に反論をしませんでした。日本は、「不法占拠」と「北方四島は日本に帰属する」との文言を北方領土返還要求全国大会決議や外交青書などから削除をし、ロシアに最大限の譲歩をしています。北方四島は日本に返還されるべき固有の領土だという従来の日本の方針に立ち戻り、対口外交を練り直す必要があります。9月5日の27回目の日露首脳会談でも腰が引けた対口姿勢があらわになり、進展が全くなく、このままでは島は返らず、経済協力で日本の資金だけが取られるという最悪の事態になりかねなく、共同経済活動については再検討すべきと考えるが、市長見解を問う。

ナンバー2、日韓問題。歴史認識や通商分野での対立を安全保障分野に持ち込み、日韓の亀裂をさらに深めた文在寅政権の判断は過った決定であります。問題は、今回の軍事情報包括保護協定（G S O M I A）の破棄が、日米韓3カ国による東アジアの安全保障を揺るがしかねないことにあります。北朝鮮は核、ミサイル開発を続け、中国は軍事力を年々増強させ、ロシアの軍事活動も極めて活発である。日米韓の連携のほころびは結果的に北朝鮮や中国、そしてロシアを利することになり、北朝鮮による日本人拉致問題への影響も懸念される。戦後最悪の日韓対立の発端は、昨年10月、韓国人元徴用工訴訟で韓国最高裁判所が日本企業に賠償を命じたことにあります。請求権問題は、1965年の日韓請求権協定で解決済みという日本

の立場から受け入れられるものではありません。文在寅政権は、さらに慰安婦問題をめぐる日韓合意に基づいて設立された和解・癒やし財団を解散しました。対立が深まるにつれ、それぞれの問題に対する見解の違いは大きくなり、譲歩の余地が少なくなっているが、目指すべきは勝ち負けではなく、ともに納得できる着地点を探る知恵を出すことが肝要と考えるが、市長見解はどうか。

近藤資料ナンバー3、農業問題。国際競争力を持ちながら農家が営農継続できるようにするには、今のシステムでは無理がある。常にコストが販売価格を上回るからである。その差額を所得補償で埋めると、消費者には安い米が届くことになる。生産費と販売価格の差を所得補償で埋めていくことは、自由貿易に整合的である。自国の農業を守るため、食料安全保障として国が正面から所得補償をするという政策は欧米では当たり前のことで、世界の常識であります。民主党政権時代の戸別所得補償制度（10アール当たり1万5,000円）で恒常的に差額を埋めるという政策は画期的で、多くの農家が救われ、安定した補償を得られていました。今後は、所得補償制度にGAP加算の導入（10アール当たり5,000円追加）で国際水準の食の安全性の実践を拡大する必要があります。日本の農業はGAP認証を満たした完全無欠の安全食材をつくっているものだと国内外に知らしめる政策に転換するべきであります。このことで日本の農産物の付加価値が高まり、農家の収入もふえ、消費者の皆さんはさらに安心して食材を購入できる。このような仕組みに変えていくべきであります。市長はどのように考えているか。

それでは、通告書により質問します。1、北方領土問題に対する市長見解。

(1)、8月2日のメドベージェフロシア首相の択捉島強行訪問。

(2)、北方領土に最新型の地对艦ミサイル「バスチオン」を配備し、大規模軍事演習の実施。

(3)、日本が「不法占拠」と「北方四島は日本に帰属する」との文言を全国大会決議や外交青書から削除をしたこと。

2、戦後最悪の日韓関係に対する市長見解。

(1)、徴用工問題。

(2)、慰安婦問題。

(3)、韓国政府の日本との軍事情報包括保護協定（GSOMIA）破棄。

(4)、日本人拉致問題への影響。

3、農業問題に対する市長見解と対策。

(1)、農業者の高齢化。平均年齢69.1歳。米農家は69.5歳。

(2)、戸別所得補償制度が不可欠。食料安全保障のため。2018年度食料自給率は37%。過去最低であります。

(3)、GAP（生産工程管理）認証の必要性。

①、農林水産省や厚生労働省は、農産物等の輸出拡大のため、職員を緊急増員して対応強化を図っている。

②、東京2020オリンピック・パラリンピック選手村への食材提供のため、GAP認証農家が全国的に急増している。

③、本市農家のGAP認証取得の現状と今後。

4、人口減少・少子高齢化対策。

- (1)、出産祝金制度の創設をすべきではないか。3回目になります。
- (2)、福祉施設の増設（増床）が不可欠ではないか。
- (3)、健康寿命延伸に実績がある「トランポリン教室」を導入してはどうか。

5、現在の滑走路長でも離着陸が可能で、48人が搭乗できる「ATR42-600S型機」開発の進捗状況と、「羽田空港の発着枠の一部を地方へ再配分」の内容。

- 6、合併特例債の今後の用途と建設事業計画。
- 7、佐渡金銀山世界遺産の国内推薦の見通しと、現在の要望署名者数。
- 8、核兵器禁止条約等に対する市長見解。
- 9、佐渡市立文化芸術大学の設置要望に対する所見。

以上、1回目の質問といたします。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君の一般質問に対する答弁を許します。

市長、三浦基裕君。

〔市長 三浦基裕君登壇〕

○市長（三浦基裕君） それでは、近藤議員の質問にお答えさせていただきます。

まず、北方領土問題につきましては、これまでも申し上げておきますとおり、過去の歴史からしても日本固有の領土であるという認識は変わっておりません。日韓関係についても、北方領土問題と同様、基本的には国政の問題と考えており、引き続き国の動きを注視していきたいと考えております。また、日本人拉致問題への影響でございますが、日本人拉致被害者はもちろん、その家族も高齢となっており、拉致問題が早期に解決することを切望しております。この拉致問題の解決には、国際社会の中で米国を始め関係国との連携は重要なものと認識しておりますが、日韓関係の悪化が直ちに及ぼす影響は少ないものと思料しております。

次に、農業関連でございますが、渇水と台風の影響により収量が大幅に減少しました昨年に引き続き、ことしの猛暑による品質低下について非常に心配しております。議員ご提案の農作物共済への周知につきましては刈り取り完了前までに申請が必要でございますので、その周知の方法がどのようなことが可能なのか、農業政策課へ指示いたします。農業者の高齢化についてでございますが、高齢化と人口減少による後継者不足は農業分野に限らず、深刻な課題と受けとめております。自立した就農が可能な人材育成のために農業次世代人材投資資金や公社等の研修機能を有効に活用するとともに、雇用創出に向けた大規模化や組織化を推進する上での課題である初期投資への支援のあり方等の検討を始めているところでございます。また、戸別所得補償制度についてでございますが、佐渡市単体としての実施は現在のところ考えてございません。

次に、GAP認証の必要性についてでございます。国では、人口減少や高齢化により、今後国内の食市場の縮小が見込まれるため、日本産農林水産物、食品の輸出額1兆円を目指しており、輸出拡大に向けた課題解決のために職員を増員するものと思います。欧米への輸出のためにはGAP認証の取得が必須ですが、輸出のためだけでなく、安全、安心な農産物の生産と持続可能な農業を確立するためにGAPの認証は必要と考えておりますので、更新にかかる経費への支援を行っております。東京2020オリンピック・パラリンピックでの食材提供について、JA佐渡と取引のある卸業者に対しGAP取得の周知を図りたいと

思っております。認証取得の現状は、市内1法人がグローバルGAPを取得しております。また、本年7月にはJA佐渡AS IAGAP研究会がAS IAGAPの団体認証を取得しております。今後につきましては、JA佐渡の研究会への参加を目指している農業者がいること、また将来的には園芸作物での取得を目指したいということも聞いております。

次に、人口減少・少子高齢化対策についてでございます。出生数の減少が著しく、将来的な人口減少が一層深刻になっていると感じておりますが、出生数を増加させる特效薬はなく、中長期的な施策展開が必要であると考えております。ご紹介いただいた大分県豊後高田市の子育て応援誕生祝い金制度を参考に、多子世帯の経済的負担軽減及び出生数の増加対策の一つとして、現在策定中の第2期佐渡市子ども・子育て支援事業計画の案づくりの中で検討させていただきます。

次に、福祉施設の増設、増床につきましては、第7期介護保険事業計画において、認知症対応型共同生活介護事業4ユニット36床、介護老人福祉施設80床の施設整備を計画いたしました。施設整備については現在第7期介護保険事業計画に基づいた施設整備を進めており、平成30年度中に2回の公募を行い、認知症対応型共同生活介護事業について2事業者を選定いたしました。介護老人福祉施設については応募事業者がございませんでした。現在は公募を行っておりませんが、高齢福祉課に相談窓口を設置して対応しております。今後の公募については、事業者からの相談内容と高齢者等福祉保健審議会の意見を踏まえた上で再公募検討を行う予定でございます。

次に、健康寿命を延ばし、いつまでも健康で元気に過ごすためには、運動能力の向上や低下予防が不可欠でございます。現在、介護予防教室におきましてトランポビクス運動を一部導入しており、今後取り組みをふやせるかなどを検討してまいります。

次に、佐渡空港路線の再開についてでございます。ATR社日本オフィスによりますと、新型機開発についてことし末までに正式発表される見込みであり、現佐渡空港でも離発着可能で航続距離も長く、首都圏、関西圏にも飛行可能と聞いており、新型機による定期航空路再開に向け、関係機関を交えて情報収集等準備作業を進めておるところでございます。来年3月以降の羽田発着枠の獲得につきましては、現時点では参入計画ができておりませんので、応募できる状況にございませんが、将来条件が整えば前向きに検討したいと考えております。

次に、今後の合併特例債などの活用計画につきましては、以前にもお話しさせていただきましたとおり、今後の計画案を含め、議会と協議をしながら進めさせていただきたいと考えております。

次に、佐渡金銀山の国内推薦の見通しなどでございます。7月30日に開催されました文化審議会において、今年度の世界文化遺産の国内推薦候補には北海道・北東北の縄文遺跡群が選定されましたが、佐渡金銀山につきましては引き続き次の有力な推薦候補案件であることが確認されております。国からの課題への対応を踏まえ、国、県の関係者や国内外の専門家の皆様とともに推薦書のブラッシュアップを進め、令和2年度国内推薦、令和4年度世界文化遺産登録の実現に向けて全力で取り組んでまいります。また、ことし1月から取り組んでいる佐渡金銀山の世界文化遺産の早期登録を目指し、地元の熱意を政府にアピールするための署名につきましては、9月16日現在で約48万筆の署名をいただいております。

次に、核兵器禁止条約等に対する件でございます。佐渡市非核平和都市宣言において、本市は日本国憲法の恒久平和を求める崇高な理念に基づき、我が国が非核三原則を堅持することを求め、世界に対して全

ての核兵器の廃絶を強く訴えており、市長としてこの認識に全く変わりはありません。

次に、佐渡市立文化芸術大学設置要望に関する件でございます。去る8月16日に、佐渡市立文化芸術大学の設置についての要望書をいただいております。豊かな人間性を育む高等教育機関は将来を担う人材の育成にとって有益であるとは考えておりますが、年々学生数が減少している現状において、新たな大学の新設は市の財政状況等も踏まえた上で判断したいと考えております。

以上で私の答弁終わります。

○議長（猪股文彦君） 質問を許します。

近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 再質問します。

北方領土の問題は毎回、私のライフワークでもありますので、最初に質問していますが、いつも市長は国政の問題なので注視をしたいで答弁終わっています。県の市長会も、全国市長会も、我々北方領土返還要求運動新潟県民会議とか全国会議の重要な構成メンバーなのです。我々はパネル展を県内で上中下越輪番制で毎年開いていますが、その地元市長が必ず挨拶なり、祝辞に来てもらいます。市長みたいに国政の問題なので関係ないみたいな挨拶なんかする市長は、県内には全くいません。北方領土問題というのは国政の問題ではなくて、これは国民の問題なのです。外交交渉を下支えをするという意欲が市長には全くない。今まで何回も市長答弁聞きましたが、私は1回も三浦市長のような答弁は北方領土返還に関して聞いたことも見たこともありません。もう一回答弁できますか。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） これまでもそうですが、先ほどの答弁で言いましたとおり、北方領土については日本固有の領土であるという認識をベースに持って私自身のスタンスはとらせていただいております。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 平行線で決着が付きません。

また時間あったらやりますが、日韓問題です。近藤資料のナンバー2を見てください。これ平成21年に韓国の統一省へ衆議院、参議院、それから拉致被害者の家族の代表と行ったときの写真なのですが、次官、局長、国会議員らと2時間ほど会談しました。そのときに、私は両国の拉致に関する情報共有を強く求めて、余りにも大きな声になったので、隣の衆議院議員からとめられたというような経緯もありましたが、実は韓国は北朝鮮へ拉致された日本人の人たちのもう住所から生活から全部わかっていると聞いているのです。なぜかといいますと、脱北者は日本へ来る脱北者の何百倍でしょう。親戚が北朝鮮にたくさんいるでしょう。スパイも何千人と聞いているのです。ですから、日本人の拉致被害者の行方はほとんど全部握っている。それをどうして情報を日本にくれないのだからと強く求めたのですが、向こうの局長の答弁は、私のところと日本は国が違いますから、情報を共有できることはありませんと、そういう答弁だったのです。何回聞いても同じです。そのときの大統領は、右側③に写真載せてありますが、李明博大統領でした。彼は初めて竹島へ上陸したり、天皇陛下に謝罪を要求して日韓関係かなり悪化させた大統領でした。統一省というのがあるのです。訳し方で統一部とも訳しますが、統一省というのは何をすることかということ、南北が一緒に統一をしたいと、そういう省庁があるのです。それを目指している省庁なので、とても向こうの、日本人の拉致の関係の情報は一寸たりとも日本へ流さないというふうなことになっ

ていると仄聞をしています、市長、この認識ありますか。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 統一省等の存在は存じておりますが、韓国サイドの考え方も政権の交代等々によってもこれまでも幾つか違ってきている部分もあると思いますので、これはその時々の方針の考え方がそのままこれまでのやりとりにも出ているものだと思っております。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） ですから、GSOMIAまで破棄をして、日韓関係これほど、戦後で最悪ですが、そうすると拉致被害者の情報まで全く途絶えてしまう。今も来ませんが、ますます壁が高くなるということがありますので、やっぱり着地点は必要、そういうふうには、両国ともアメリカの同盟国でもありますから、そういうふうには私は考えますが、市長、どうですか。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 現状の両国の関係が少しでも修復されるべく、両国の国間の調整に期待したいと思います。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） いろいろ後ろからご指導ありがとうございます。

GAPに移ります。農協のGAP認証私もようやく受かりましたが、前の市長のときに、近藤資料ナンバー4なのですが、オリンピックの選手村へ、また合宿所へ朱鷺認証米のおにぎりを送りたいということで盛んに前向きに計画をしていましたが、その後どうなりましたか。

○議長（猪股文彦君） 金子農業政策課長。

○農業政策課長（金子 聡君） ご説明いたします。

今ほどのオリンピックですけれども、こちらから直接納品するという手段はございません。それぞれの食材を納品する業者、こちらのほうへ働きかけをすることで現在考えております。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 前の市長のときの計画はなくなったということですか。市長、そんな意欲ありませんか。オリンピックの選手村へ佐渡の食材を出したい、前の市長は相当熱を入れていましたが、今の市長は全くないですか。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 今担当課長から申したとおり、直接納品ということができませんので、あくまでもJAを中心にやりとりさせていただいている卸業者の方を通じて働きかけるということは続けております。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 全く残念です。全く意欲がないのだから、質問のしようがない。

出産祝金だけがかなり前向きな答弁だったように思いますが、もう一回答弁を下さい。計画に組み入れるという答弁でしたか。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 豊後高田市の例も踏まえて勉強させていただいて、組み入れるかどうかについての

検討をさせていただくという答弁でございます。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 組み入れるが、金額等についてはこれから検討をするということではなくて、計画に上げるかどうかをこれから検討するということですか。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 出産時の一時金がいいのか、あくまでもトータルの長いスパンでのしっかりした支援がいいのかも含めた中で、いろいろ検討させていただきたいと考えております。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 豊後高田市、近藤資料ナンバー5を見てください。10倍に引き上げて、4子以降に100万円を4月から出しています。「住みたい田舎」ベストランキング総合部門日本1位です。2014年からですから、4年間以上ですが、連続で人口の社会増が現象として起きて実現をしています。ここの②番に書かれているように、やっぱり手厚い支援とともに市のスタッフの情熱が移住者の感動を生んでいるというふうに書かれています。市長は一時金ではなくてずっと継続的にといいます、③番見てください。生まれたときに100万円をぽっと一時金でやるのではなくて、豊後高田市は4カ月、1歳、2歳、3歳に分けて100万円。ですから、一部で心配するように、子供を産めばそれ全部パチンコに使ってしまうのではないかというような心配はありません。

これを、いつも市長は答弁で、切れ目ない長期的な支援という言葉当てはめると、例えば小学校入学のときに出したり、高校入学のときに出したり、ずっと年度をまたいでその支給をするというやり方もありますので、いずれにしても私は出産祝金200万円を提案していますが、繰り返しますが、200万円ですとたった2億円でいいのです、年間。10年やって20億円、20年やっても40億円でできるのです。今の200億円の基金からは20年間やっても40億円。それで移住者がどんどん、どんどんと全国の例のようにふえれば人口減少を防ぐ手だてになるのですから、市長、計画に上げるか上げぬか検討ではなくて、まず計画に上げることを約束してもらえませんか。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 一時金で段階的に現金支給をする方法論もあるでしょうし、実際にかかる費用をサポートして減額するという方法論もあると思います。そのような中で、子育て支援については今後も力点を置いた政策として佐渡市としては盛り込んでいかなければいけないと思っておりますので、さまざまな要素を踏まえて考えたいと思います。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） これは決着がつくと思っていましたが、なかなかつかないようですが、全国の先進的な自治体で子育て支援に力を入れているところは100%出産祝金を出しています。市長もそういう気持ちがあるならば出産祝金は不可欠だと思いますので、ぜひ計画に上げていただきたいというふうに思っています。

次に、トランポリンは、佐渡でもやっているというの私知りませんでした、恐らく佐渡でやっている写真を見ると道具も器具も全く違うし、指導者も違うのかなと思っております、佐渡でやっているトランポリンの教室の成果が出ていたら教えてもらいたいけれども、ありますか。

○議長（猪股文彦君） 岩崎高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（岩崎洋昭君） ご説明いたします。

佐渡市において、介護予防教室でトランポリン教室を実施しております。こちらにつきましては、議員がお示ししております資料でございます転倒防止の手すりがないトランポリンでの実施ということになっております。回数としましては平成30年度に23回実施しております、実人数で20名の方ご参加いただいております。延べ人数としましては、年間トータル175名ということになっております。私ども介護予防、運動機能の向上ということで実施をしておるところなのですが、より詳細な効果につきましてはまた検証のほう進めてまいりたいと考えております。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） ①番、これは福岡県田川市の広報「たがわ」であります。左側の健康チェックというところを見てください。体年齢がやっている人とやっていない人で7歳、やったら7歳若返ったということで、右の下のグラフがありますが、医療費が参加している人としていない人で2倍参加していない人がかかるというデータです。それから、右側が要支援、介護度も参加している人は半分ぐらいの介護度で健康長寿が保てていると。佐渡で20人といいましたか、それはこういうデータはもう出ているのですかと聞きたいの。これは下、②、③番もそれぞれ朝日新聞、毎日新聞で、全国的に普及しているこのトランポリンの教室なのですが、かなりの成果が出ている。佐渡で今やられている手すりのないトランポリンの教室は参加人数も少ないようですが、成果は出ているのですか。

○議長（猪股文彦君） 岩崎高齢福祉課長。

○高齢福祉課長（岩崎洋昭君） ご説明いたします。

私どもの実施の状況では、詳細なデータまではまだ分析のほうはしておりません。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） ナンバー7、ATR42-600S型機ですが、これは佐渡新航空路開設促進協議会の講演会資料いただいたものを載せておきました。皆さんご案内のように、滑走路長は800メートル。③番に、はや佐渡の名前が地図上に挙がっていますし、④番、既に受注の機数が17機で、2022年に就航予定と、こう書かれていますが、あと2年ぐらいで就航される計画なのでしょうか。

○議長（猪股文彦君） 高津交通政策課長。

○交通政策課長（高津 孔君） ご説明いたします。

現在17機の受注があり、今後も需要が見込まれることから、今年末までに開発について正式に発表されれば2年後にということでございます。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 最初の答弁で羽田空港枠を地方へ再配分するというのをもう一回説明をしてもらえますか。

○議長（猪股文彦君） 高津交通政策課長。

○交通政策課長（高津 孔君） ご説明いたします。

2020年に羽田空港枠の使用期限の更新に合わせて発着枠が固定化しないようにする目的で、国内線今回増枠はないため、既存の発着枠を航空会社から回収して、それを再配分するというものでございます。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） それは佐渡からATR42-600S型機が飛んだ場合、5年に1回の更新と思いますが、羽田空港枠が、佐渡の飛行機が離発着できる枠があく可能性が出てきたと理解していいのですか。

○議長（猪股文彦君） 高津交通政策課長。

○交通政策課長（高津 孔君） ご説明いたします。

今回新規参入枠というのが3枠ございます。これについて佐渡のほうでもしできれば、航空会社があれば応募のほうは可能だと思います。ただ、1点、羽田空港に現在飛んでいる飛行機については全てジェット機になっておりますので、そこにターボプロップ機が入れるかどうかというのが1つ課題になるかと思っております。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） いずれにしても、何年後かにこのATR42-600S型機が飛んだ場合は羽田空港に入れる可能性はあるということですね。申請してみないとそのとき、5年後になるか、2年後になるかわかりませんが、そういうことで理解しておきます。

さて、核兵器廃絶の問題です。市長は最初の答弁で、近藤資料ナンバー8の全くもって議事録のとおり
の答弁をきょうもされています。一言一句変わりなかったように思いますが、広島市でもそうですし、長崎市でも式典の際に核兵器禁止条約批准をそれぞれの市長が強く訴えています。ところが、この核兵器禁止条約に日本は入りません。入らない理由は何だと市長は思いますか。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 国としての説明はメディア等でもされていると思いますが、核保有国に対して過剰な刺激を与えない等々幾つかの理由になっていたと認識しております。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 市長答弁でこのとおり読み上げていましたが、「世界に対して全ての核兵器の廃絶を強く訴えるものであり、市長としてこの認識に変わりはありません」ということですね。つまり核兵器禁止条約に署名をして入るべきというのが今の市長の考えですか。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 非核化について、核兵器禁止条約については入るべきものだと私自身は考えております。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） これあちこちに張られているポスターです。これは、市議会は町村議会も含めて全部の自治体が意見書も採択しています。ところが、県内の首長の賛同署名が23人。30市町村長のうちの23人です。これに今市長は入るべきという強い意思を表明しましたが、市長はこの23人の中に入っていますか。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 済みません、入っていないかもしれません。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 入っていないのです。市長、断ったでしょう。事務局がそう言っている。断っていないですか。7人の首長だけ入らない。そのうちの一人、三浦市長ですよ。違いますか。

- 議長（猪股文彦君） 三浦市長。
- 市長（三浦基裕君） 済みません、お断りしたという認識は持っておりません。
- 議長（猪股文彦君） 近藤和義君。
- 19番（近藤和義君） 日本原水爆被害者団体協議会が中心にやっている運動ですが、断らなければ入っているわけ、当然。そうでしょう。入っている23人全部個人名も挙がっていますよ、もうインターネットで。三浦市長は断っている。違いますか。
- 議長（猪股文彦君） 三浦市長。
- 市長（三浦基裕君） 済みません、その認識は持っておりません。もう一度ここについてはしっかり確認させていただきます。
- 議長（猪股文彦君） 近藤和義君。
- 19番（近藤和義君） やっていることと言っていることが全く市長違うではないですか。後で二枚舌と市民が言う言葉も出てきますが、ほかにもたくさん挙げれば切りがないけれども、一方では世界に訴えていきたいと、核兵器禁止条約に入るべきだと言いながら、30市町村のうちの7人だけいろんな理由があってここに入らない。そのうちの一人になっているということは事実でしょう。
- 議長（猪股文彦君） 三浦市長。
- 市長（三浦基裕君） そこに名前が入っていないということでございますので、もう一回確認させていただきたいと思います。
- 議長（猪股文彦君） 近藤和義君。
- 19番（近藤和義君） 後ろから先ほどやじ飛びましたが、日本が何で入らないかという、アメリカの核の傘の下にいて、アメリカをおもんばかって入れないということだろうと思うし、市長が言っているのは、これは入るべきだと、私は入ることに賛成だ、しかも議事録によると核兵器廃絶を全世界に向けて強く訴えると言っている人が入っていない。入っていないのは事実ですから、入っていない理由として挙げられるとしたら何でしょうか。
- 議長（猪股文彦君） 三浦市長。
- 市長（三浦基裕君） その辺について、入っていないこと自体を私自身もう一回確認させていただきたいと思います。
- 議長（猪股文彦君） 近藤和義君。
- 19番（近藤和義君） そんなに軽い問題ではないと思うのですが、次行きます。
- 最後の近藤資料ナンバー9です。これは7月26日の新発田市の庁舎、BCS賞というかなり重い賞をいただいたという新聞記事です。何でこんな賞をもらえたかといいますと、親子連れが遊ぶ半屋外のスペースが評価されたというふうに記事には書いてあります。私は市庁舎についてずっと継続して質問をしていますが、前回の質問では、佐渡には子供の遊び場が少ないので、ぜひとも遊び場が必要というようなことを訴えたのが、その一部が②番なのですが、この遊び場を庁舎の中につくったということが評価をされて、11月に受賞式だそうですが、市長、この新発田市の庁舎について、さらっとこの記事を読んでみての所感を伺いたい。
- 議長（猪股文彦君） 三浦市長。

- 市長（三浦基裕君） 活用アイデアの一つだと考えます。
- 議長（猪股文彦君） 近藤和義君。
- 19番（近藤和義君） 私は前にも何回も言ってきましたが、佐渡市もその遊び場、生涯学習センター、それから図書館等を包含した新庁舎がどうしても必要ということをお願いしてきました。市長は新庁舎は建てないという強い意思を持っているようですが、図書館も駐車場が少なく困っているし、子供の遊び場も少ない。それを庁舎建設により解消できるとしても庁舎は建てませんか。
- 議長（猪股文彦君） 三浦市長。
- 市長（三浦基裕君） 複合施設のあり方について、さまざまなパターンが想定されると思います。庁舎建てる、建てないについて、私自身の考え方としては現状は変わっておりません。
- 議長（猪股文彦君） 近藤和義君。
- 19番（近藤和義君） 振り返ってみますと、市長は選挙公約ありましたが、庁舎を建てる、建てないは全く触れていませんでした。間違いないですね。
- 議長（猪股文彦君） 三浦市長。
- 市長（三浦基裕君） 建てる、建てないという二者択一についての言及はしておりません。
- 議長（猪股文彦君） 近藤和義君。
- 19番（近藤和義君） 平成28年4月の初めての所信表明演説で、華美な設計があったら見直したい、これは後で1億5,000万円ぐらいと聞きましたが、それも間違いないですね。
- 議長（猪股文彦君） 三浦市長。
- 市長（三浦基裕君） そこは数字もそのぐらいだったかと思います。
- 議長（猪股文彦君） 近藤和義君。
- 19番（近藤和義君） 連合審査会で議会の反対を押し切って庁舎建設中止をあなたは表明しました。あのとき議会の過半数は建てるべきで、建てないに対して反対多数だったのですが、それでもあなたは押し切った。間違いないですね。
- 議長（猪股文彦君） 三浦市長。
- 市長（三浦基裕君） 建設計画の中止は打ち出させていただきました。
- 議長（猪股文彦君） 近藤和義君。
- 19番（近藤和義君） 住民投票条例が上がってきました、住民の意見を聞いてほしいと。それを再議で拒絶をしましたね。間違いないですね。
- 議長（猪股文彦君） 三浦市長。
- 市長（三浦基裕君） 間違いございません。
- 議長（猪股文彦君） 近藤和義君。
- 19番（近藤和義君） 当時議会で建てるべきが11対10で、議会決議をしました。今は14対7ぐらいになると思いますが、当時は11対10。その決議も無視をしましたね。
- 議長（猪股文彦君） 三浦市長。
- 市長（三浦基裕君） これまでそのときの流れのそのままでございます。
- 議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） つまり市長は、市長になってからずっと市民の意見も聞かずに、議会の意見も無視をして進んで来て、3年半何も仕事ができなかった。空白の4年になりますよ。こんなことは、私30年近く議員やっているけれども、初めてです。全く仕事をしていない。それはなぜかという、市民の意見とか議会の意見を聞かないからです。予算も否決、当初予算まで否決されているではないですか。その基本の要因は庁舎建設ですよ。違いますか。それと、この空白の4年間になるそのことを、市民や議会を無視した今までの行動を市長はどのように認識をしていますか。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 新庁舎建設を中止したことについて、議会の皆様との理解を得られない部分で大きく影響してきた部分は十分あると思います。ただ、その一方でやれる部分についてはやりましたが、いずれにしても合併特例債関連、特に合併特例債また5年延長したりするこの流れの中で、私自身の政策実現に向けてさまざまなネックが生じているところは間違いない事実だと思います。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 12月議会で使った私の資料です。これが三浦氏が市長になる前の建設計画です。合併特例債の予定事業。ちょっとこっち見て、せっかく。ああ、そっちでもいいです。これが1番目、最上位事業が庁舎建設です。それで進んできたのです、あなたが市長になる前。それは認識していますか。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） この数、ずらっと羅列されていることは認識しております。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 最上位の事業をあなたはひっくり返して、こういう判断をしました。これが④番。何だかんだやってみたら支所も金がかかったので、420億円の合併特例債の限度額を超えてしまった。超えてしまったので、本庁舎建設は取りやめると。支離滅裂です。下位の事業を取りやめるべきで、最上位の事業をあなたは取りやめますと。議会が十分に認識していないときにもうケーブルテレビで、「三浦市長の今コレ！」とかというところであなたは言っている。これが議会としては多くの議員が理解できないところ。議会にも相談なかったし、ぼんと打ち上げるわけ、ケーブルテレビで。一番大事な最上位の事業を限度額を超えるからやめるという認識が全く私たちには理解できない。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 時系列をちょっとお間違いになられ、誤解されると困るのですが、私は平成28年度の時点で新庁舎建設の計画の中止の方向を打ち出させていただいております。よってもってこの平成30年度のところについては、既に新庁舎建設の部分を外した上での考え方をこの右側に書かせていただいたものでございます。左側の部分は、平成28年度6月時点で当初残っていた建設計画のその時点でもう既にトータルの合併特例債の限度額をオーバーしていたというところをイメージして図形化したものでございますので、既に平成30年の、この放送したのも平成30年10月でございます。そのときにはもう1年半以上前に庁舎建設については打ち出させていただいておりますので、今の近藤議員の論理とはちょっと違うのかなと思います。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 時系列私のほうが正しいと思うけれども、平行線なのでやめますが、今議会で市長

は、本庁舎建設ここに書かれているね。これを取りやめると、つまり合併特例債35億円残さないでと議会が通らないものだから、ここのアミューズメント佐渡の改修と両津文化会館の解体等を公共施設等適正管理推進事業債でやるという判断をしましたね。つまり何を言いたいかというと、限度額の中に今は本庁舎建設が入っているわけ、ほかの起債に回したからほかの事業を。それが筋論です。それが正しい。つまり今は、限度額の中で最上位の事業である本庁舎建設ができる状態になっています。この状態が今こういう状態になっているわけです。わかりますか。つまり合併特例債の延長期限も迫りますので、今から基本設計、実施設計に踏み切るべき。前の市長のときに基本設計やってはいますが、東京2020オリンピック需要もあって多分値段も変わっているだろうから、もうすぐに基本設計に取り組む、できるのですから。既定路線どおりの計画でできるのですから、それをやりましょう。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 合併特例債を適用できる事業についてはほかにもまだございますし、その中にもまだ計画が完了していない部分もございます。その辺を含めて考えなければいけないと思いますし、今回公共施設等適正管理推進事業債をアミューズメント佐渡の改修に使わせていただくことは、議員おっしゃったように、合併特例債を使うということは理解得られないと判断してのものでございます。その辺も含めてしっかり、いずれにしても改めて市民が庁舎建設についてどのような形なのかというような、問う場というようなところもこれから出てくるのではないかというふうに思っております。現状は庁舎建設について建設しないという方向を私自身は打ち出させていただいておりますので、あくまでもアミューズメント佐渡の件については公共施設等適正管理推進事業債でございますし、両津文化会館、これについてはあそこ公共施設等適正管理推進事業債と書いてあります下に地方交付税措置ゼロとなっておりますので、基本的には自主財源でやるほうが利子のない分お得だと考えております。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） だから、あなたの言っていることはまるっきり矛盾していて、今いみじくも合併特例債をほかに使うと議会の否決を食うから私は、今の発言ですよ。合併特例債は庁舎建設分を残して、公共施設等適正管理推進事業債で両津文化会館の解体、これはゼロですからやらないと。アミューズメント佐渡の改修は公共施設等適正管理推進事業債でやるということでしょう。つまり今の議会構成が来年4月からどう変わるかわかりませんが、今の議会構成ですと合併特例債で庁舎を建てる以外全部あなたの提案否決になりますよ、自分で言うぐらいだから。つまり行政の継続を守らなければならぬのですって。ですから、この順序で、今までの既定路線で庁舎整備等特別委員会まで議会はつくって、煮詰めてきた案に戻すのが正しい。そうしないと、あなたの意見は議会を通らない、自分で言うぐらいだから。そのことでアミューズメント佐渡を公共施設等適正管理推進事業債に切りかえたのでしょうか。議員全員協議会であなたが言ったように、できれば全部を合併特例債でやりたいけれども、議会の皆さんと相談をしながらと。それ相談したら全部が反対でしょうが。つまり議会通らないので、仕方なく公共施設等適正管理推進事業債に切りかえたと、そういうことではないですか。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 公共施設等適正管理推進事業債に切りかえた理由は、おっしゃった分が多々ございます。いずれにしても、私自身今年度中に他の合併特例債関連事業についてちょっと検討中のもの一部あ

りますが、あの大きな金額のものを今年度中に議会に提案させていただくというつもりはございませんので、全てはその後の計画づくりになるかと思えます。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 一番最後のページに市民益無視というのをある市民が私に投書をくれましたが、市民益を無視している現状を申し上げます。市長は、現庁舎の大規模改修を6億7,000万円でやりたいと計画にのせてあります。きのうの答弁で、それは4月以降にしますと言いましたね。4月以降、来年の春の市長・市議会議員選挙を踏まえて、その後ということですね。6億7,000万円使って、あと耐用年数30年残っていますから、あと7億円以上補修が必要になります。それは根拠は何かということこれです。国土交通省が監修をしているLCC、ライフ・サイクル・コスト、これが佐渡市で一番大きな指針にしているデータです。これによると、今回6億7,000万円で大規模改修をしても、その後すぐに10年間ぐらいでまた7億円以上必要になるとというのがこのLCCです。30年後それならどうなるかということ、30年後はこれによると今30億円で建つものが60億円かかると、物価上がりますから。つまり合計で80億円。今なら9億円で30億円のもの建てて30年間改修なしです。この80億円どぶに捨てることになるという市民益を市長は何回も私が申し上げても理解ができないのですか。損をすることやめましょう。今7億円で改修するところへ2億円足せば30億円の立派な庁舎、30年間改修が要らない庁舎が建つ。差し引きで77億円の得になるのですって。根拠はこれです。いかがです。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 議員の論理として承らせていただきます。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 裁判がありました。A案、B案、C案それぞれ対比して、その数字は全部このデータを使って裁判材料になりました。市長も、議員に議会で示したのも全部このデータです。このデータを軸に佐渡市は動いてきたとすると、80億円もこれから無駄な金を使うよりも9億円で30億円の庁舎を建てたほうが血税の無駄遣いを防げると普通の人は考えるわけです。両津病院なんかちょっと遅れようが、解体なんかちょっと遅れようが、大損はこかない。ところが、これは何十億円の血税をどぶに捨てることになるというのが市長には理解できないのですか。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 先ほど申したとおり、議員の論理として承らせていただきます。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

近藤和義君、質問をしてください。

○19番（近藤和義君） わかっている。

きのう質問者言っていました。職員の労働環境が非常に悪い。狭い。市民サービス、防災の面で庁舎がないとだめだと。全く私そうだと思う。この前の地震のときに、この佐和田行政サービスセンターの庁舎へ夜中の2時か3時ごろまで我々詰めて待機をしました。災害対策本部は本庁なので、情報が直に入っていない。それから、水道管の凍結事故のときも、あのときもほとんど真野行政サービスセンター内の上下水道課が仕切っていましたので、災害対策本部の役目は果たせなかった。つまり市民の安全、安心のためにも本庁舎はしっかりしたものがいい。それから、書類や物品保管等狭隘でがちゃがちゃになっていると。

古屋造作には経費がたかさんかかるみたいなきのうの一般質問の資料でしたが、全くそのとおり。市長が新庁舎を、20市の中で私のところだけになりましたが、分庁方式でずっといくその考え方がわからないが、分庁方式のメリットは何ですか、では。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 職員の職場として幾つかに分かれている現状はございますが、それ以外の部分でいますと対市民に対する究極の行政サービスというものは、今あります支所、行政サービスセンターも含めて基本的に市民が必要とする手続についてはそれぞれの出先機関で完結できる形にどう持っていくかということが一番大事なサービスかと思っております。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 違います。私が言っているのはそうではない。支所機能はうんと大事にしなければならぬ、私も同感です。ただ、本庁機能としてのここの議会とか、上下水道課とか、教育委員会は、本庁の機能を分散しているのです。それは本庁に一括しなければいけないということを言っているので、もう一回答弁を下さい。支所を大事にしなければならぬというのは当たり前。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 防災等も含めて本庁についてはしっかりと、今日の前ではなくても、いろんな形の連携等も含めて、災害対策本部を設置の場合はそれぞれの部署の責任者も集結した上でそれぞれの担当課とやりとりしておりますので、そこのやりとりは可能だと考えております。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） だから、初期対応が遅れたのではないですか。真野行政サービスセンターの前であなたテレビのインタビュー受けていたでしょう、凍結事故のとき。あんなことはだめなのですって。災害対策本部が金井にあるなら金井の本庁舎で何もかもできなければ、災害対応、初期対応なんかできるはずがない。そんな災害のときに素早く動ける体制がとれないような分庁方式ではだめだと私は思います。

2分になりましたが、皆さんのお手元の資料、これが市民からの投書です。うち帰ったら、郵便受けに入っていました。読み上げますと、「三浦基裕市長の5つのキーワード」と書いてありました。「市民益無視、議会無視、二枚舌、無為無策、支離滅裂、佐渡市民は怒っているぞ!」というのが原文、封筒のまま持ってきていますが、こう書かれていました。これ見て、うわっ、言い当てているなと私個人的には思いましたが、市長はどんな感覚でしょうか。

○議長（猪股文彦君） 三浦市長。

○市長（三浦基裕君） 個々の感想にはお答えしないほうがいいと思います。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 一部の市民か、それとも大多数の市民かわかりませんが、私はこの指摘、あなたと3年半つき合って全くこのとおりだと思いました。まだ2つぐらいつけたぐらい。これは本当に市民は外にいても市政を見ているなということで感動したわけなのですが、特に一番最初の市民の利益を無視している、本当にそうです。議会無視も甚だしい。議会を無視して進むと。丁寧な市民への説明も、議会の説明もなしで進んでいる。それ毎回のように市長が指摘をされているではないですか。二枚舌というのは、うそつきのこと言うのです。きのうときょうと言うことが違う。無為無策、支離滅裂、全くあなたを言い

当てていると私は思いますが、あなたからコメントがもらえないならそれで結構ですけども、これを胸に……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○19番（近藤和義君） 副市長、どう思いますか、後ろから。

○議長（猪股文彦君） 藤木副市長。

○副市長（藤木則夫君） 私は三浦市長をしっかり支える役目でございますので、そういうことで私の力不足があるとしたら反省していきたいと思っておりますが、三浦市長のそばに仕えていて、三浦市長私は一生懸命やっているというふうに思っております。

○議長（猪股文彦君） 近藤和義君。

○19番（近藤和義君） 時間になりましたので、終わります。ありがとうございました。

○議長（猪股文彦君） 以上で近藤和義君の一般質問は終わりました。

○議長（猪股文彦君） 以上で本日の日程は全て終了いたしました。

次の会議は、27日午後1時30分から今期定例会最終日の議事を行います。

本日は、これにて散会いたします。

午前11時09分 散会